



# つつじ会だより

静岡県在宅保健師の会「つつじ会」

No.23 平成29年度

## 本会の素晴らしき財産

静岡県国民健康保険団体連合会 常務理事 萩原綾子



在宅保健師の会「つつじ会」の皆様には、日ごろから各市町における住民の皆様の健康保持・増進のためにご尽力いただいておりますことに敬意を表し、本会の事業運営に多大なるご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、私が最初に保健師さんと一緒に仕事をしたのは、県広報のCM制作です。その中でも、特に印象に残っているCMは、「自殺防止」をテーマにしたものでした。デリケートなテーマだけに、職員間でも県民に呼びかけるメッセージが中々纏まらず、苦慮していた時、彼女が「残された家族の刹那さや気づくことができなかつた辛い家族の気持ちを真摯に受け止め、二度と繰り返さないためには、家族からの言葉がけが最も大事である」という企画を提案してきました。満場一致でこの企画が採択され、出来上がったメッセージが「パパ、ちゃんと寝てる？」でした。放送後は、県民から感動の言葉が寄せられ、国や他県さらには大手企業等から問合せがあり、多くの反響を呼んだことを今でも鮮明に覚えています。恐らく保健師さんの鋭い洞察力による提案が無かつたら、このような現象は起きなかつたと思います。

さて、本会に所属し、深く感心し、尊敬の気持ちを抱いたことがありました。それは「つつじ会」の特定健診未受診者家庭訪問事業です。

現在、市町では特定健診の受診率向上に向けて様々な取組を行っていますが、保健・医療の課題が多様化

・複雑化し、マンパワーの確保も十分ではないことから、保健師は多忙を極め、家庭訪問事業を行うことは難しい状況にあります。

「つつじ会」では、このことに着目し、住民の健康支援の中で培ってきたコミュニケーション技術と多様なニーズに関わってきた豊富な経験を活かして、長年に亘り家庭訪問事業に取り組んでいただいております。改めて、心から感謝申し上げたいと思います。

市町からは、「行政では把握することができない住民の現状、生の声を伺うことができ、住民と行政の架け橋を担っていただいたことは大変有難い。」「集団指導では見えない家庭環境、個人の日常生活を洞察しきめ細かく支援することの重要性を改めて認識させられ、家庭訪問の経験が少ない保健師にとって、貴重かつ重要な研修の場になった。」等、高い評価を数多くいただいております。本会における素晴らしい財産になっていると思います。

一方、平成30年度からスタートする国保制度改革により、市町には住民の特性に応じたきめ細かい保健事業の実施が求められ、「つつじ会」の活動への期待は益々高まってくると思います。

本会としても、会員の皆様が活動しやすいよう、より一層のサポート体制に努め、住民の健康、幸福のために、国保保険者の支援に取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きご協力の程よろしく願いいたします。

## 特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業

訪問時期：平成29年8月～11月

訪問対象者：国保保険者が実施した特定健康診査の結果、

受診勧奨値を超えたにも関わらず医療機関を受診していない者（1保険者100名限度）

訪問目的：かかりつけ医への受診勧奨と必要に応じて生活習慣の改善に向けた助言をし、生活習慣病の発症予防・重症化予防を図ることを目的とする。

### 御殿場市

（訪問保健師：8名）

御殿場市は、人口88,853人、高齢化率22.6%、出生率9.8%国保加入率20.8%（H28.4.1現在）です。東京から約100kmの距離にあり、東京・横浜などの経済圏、通勤圏内にもなっています。

御殿場市の特定健診の受診率は、平成28年度の実績は、43.6%で県内35市町中上位から13番目に位置しています。特定健診の結果を県内で比較すると、メタボリックシンドローム該当者の割合が高くなっています。現在御殿場市では、『健康寿命とメタボリックシンドローム』の講話と手軽にできる運動などを合わせて出張教室を行い、独自の行き届いた支援が行われています。

7月の家庭訪問事業合同打ち合わせ会では、御殿場市の健康課題や保健事業の実施状況を伺いました。健診後にフォローの必要な対象者に対し、面談・電話・家庭訪問で接触しているとの説明を伺い、住民との関係の良さを感じました。



《事前打合せにて実施方法や注意点等を確認》



《住宅地図にて地区割・訪問宅を確認》

今回訪問保健師は8人が参加し、訪問対象者150名のうち97名に実施しました。この訪問事業の目的は、平成28年度の特定健診受診の結果、受診勧奨判定値を超えたにもかかわらず医療機関を受診していない人へ受診勧奨し、重症化を予防することです。家庭訪問の受け入れは良好で、都合が悪くても日程調整をしていただきました。日頃から市の保健師の方々や住民との良い関係であることから、私たちつつじ会の保健師に対する接し方も、おのずと温かいものでした。ただ、今回の訪問目的である重症化予防のための受診勧奨についての住民の反応は、「医療受診の必要性は理解できたものの、受診につながるかはわからない。」という方もおられ、保健指導の難しさを感じました。

今回初めて家庭訪問事業に参加させていただきましたが、つつじ会の先輩保健師のみなさんの意欲や住民の方への対応を間近に見ることができ、大変勉強になりました。また御殿場市の職員のみなさんの細やかな配慮、気配りに感謝申し上げます。やりがいのある事業に参加させていただき、充実した時を過ごせました。ありがとうございました。

（記事：渡辺麻理）

## 特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業

### 川根本町

(訪問保健師：5名)

川根本町は、静岡県の中東部大井川の上流に位置しています。大井川の流域でのお茶づくりと温泉が特徴です。人口は、7,140人ですが、高齢化率は47.6%（後期高齢化率30.0%）と高齢化が進んだ町です。お茶の生産・観光・電力会社関係の仕事に携わっている方が多いです。

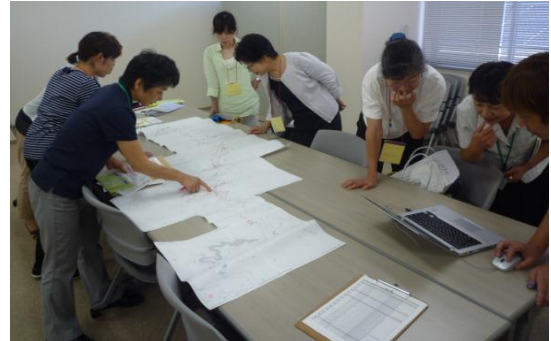
川根本町には、きかんしゃトーマスが走る沿線があり、夏休み期間は交通規制があるため、家庭訪問は、8月の終わりから11月にかけて実施しました。訪問保健師5名に連合会の保健師が加わり、すべて車による訪問となりました。

日頃から、町の保健師や地域包括支援センターのスタッフが、住民へのフォローを行っているので、訪問保健師の受け入れは良好でした。対象者のうち40歳代の方については、仕事の都合でキャンセルがすることを予想しました。日程調整に苦労した訪問保健師もいましたが、キャンセルは思いのほか少なく済みました。これは自宅または地域で働いている方が多いこと、健康に対する関心が高いことの表れと感じました。



《訪問宅までの交通手段を確認》

川根本町の平成28年度特定健診受診率は、54.1%と県下随一です。多くの町民が毎年同じ時期に同じ健診機関で受診しており、結果については説明会場に向いて聞いている方がほとんどでした。健診結果票はファイルに綴じてあり、訪問当日多くの方がファイルを見せてくれました。



《住宅地図や航空地図で訪問宅を確認》

このような中、受診勧奨対象者が受診していないことが不思議ですが、受診勧奨値ギリギリの方は、「ここが少し高いね。」と結果の説明を受けても「メタボではない。」「大きく変わっていない。」等の内容が耳に残っているのか受診に至らないようでした。

また、必ず受診してほしい方の中には、血圧170/100mmHg、HbA1c8.0、尿酸値8を超える方もいましたが、①自分では自覚症状がなく、医者にかかるつもりはない ②わかっているけれど忙しい ③医療機関が遠い等の理由で受診していませんでした。③の医療機関については地域の特性もあると思います。町内の医療施設は、2つの診療所を含めて5か所、歯科は5施設のため、島田市の医療機関を利用している方も多いのも実情です。

訪問対象者の方々に受診を勧めながら、生活習慣の改善のアドバイスをすることで、対象から外れるようにすることも大切だと感じました。まさに予防医学の重要性を改めて認識しました。ケースによっては、経年的データを理解し、受診勧奨を納得した方もいます。今回の訪問により、生活習慣の改善や治療の必要性が伝わっていることを願います。

川根本町の皆様と連合会のご協力のおかげで、家庭訪問事業を無事に終えることができました。ありがとうございました。

(記事：山田由美子)

## 視 察 研 修

日 時：平成 29 年 11 月 29 日（水）～30 日（木）

視 察：①はーとふるプラザ袋井（袋井市久野）  
（袋井市総合健康センター）

②内藤記念くすり博物館（岐阜県各務原市）

出席者：東部地区 7 名 中部地区 6 名 西部地区 3 名 合計 16 名



師走前の穏やかな 2 日間の視察研修は、期待を裏切らない中身の濃いものでした。

1 か所目は袋井市総合健康センター「はーとふるプラザ袋井」を視察させていただきました。「はーとふるプラザ袋井」は、「生涯にわたる健康づくり」の拠点として平成 27 年に開設されたとのこと。袋井市は、特定健診受診率が県下トップを維持し、保健指導率 52.9%と高く、さらに第 5 回「健康寿命をのばそう！アワード」の生活習慣病予防及び介護予防の両分野で W 受賞に輝いた素晴らしい取組みを展開しています。今回の視察の目的は、効果的な保健指導を熱心に進めている袋井市独自のシステムについて学ぶことでした。

最初に健康づくり課課長 富山正俊氏からご挨拶をいただき、保健活動に信頼と期待を寄せられていることを感じました。続いて、健康づくり課主幹 藤田あけみ氏から、施設概要と特定健診・特定保健指導を中心とした成人の健康づくりの説明を受けました。

藤田氏は、住民向け指導の具体例として、「内転筋を鍛えながら勉強しませんか。」と、私たち参加者にボールを渡して、その具体的な使い方や肩こり体操、「ながら体操」を紹介してくれました。次に、「ソルセイブ法」による塩分チェックを体験。「実際に一緒にやってみて、必ず、何かしら土産となるものを掴んで帰ってもらおう！」という強く熱い思いが伝わりました。



中でも注目かつ羨望であったのは、専用電話が引かれ、非常勤職員 6 名が活動する「保健指導室」の設置と、そこで従事される職員方々にも共通している熱い思いでした。

藤田氏の講義は、『データヘルス計画は実践力あつての計画～住民に寄り添った保健指導の取り組み～』と題し、用意してくださった資料から溢れるほどの内容でした。机上の空論・理想論ではなく実際に住民の生活を見ながら実践の中で得られたものを経験者・実践者の声として共有・提供すること。そして、それらを蓄積・分析した積み重ねを次年度の予算に反映するような意識を職員が持つようになったこと、その分析は国保連合会の医療費分析システム『しずおか茶っどシステム』を有効活用していることなど、具体的に示されました。

話が尽きぬ中、少し遅れて一路宿泊先の岐阜へ。朝起きてびっくり！長良川がすぐ横で、岐阜公園も目と鼻の先の江戸時代から続く老舗旅館でした。



2 か所目の「内藤記念くすり博物館」では、開館の経緯や館内外の展示物・栽培薬草・木々等の説明を受けました。看護学生時代に学んだ人物や医学・薬学の歴史など、遠い記憶を遡り懐かしく思いました。特に今日、注目されている認知症改善薬も興味深く、薬と食の大切さを再認識できる良い機会でした。

（記事：渡邊弘子）

## 第76回日本公衆衛生学会に参加して 「明治維新と薩摩と公衆衛生～公衆衛生の黎明期を支えた地から 未来への発信～」をテーマに鹿児島市で開催

日 時：平成29年10月31日(水)～11月2日(金)  
会 場：宝山ホール他(鹿児島県鹿児島市)  
参加者：鈴木富士子(つつじ会会長)  
岩崎久子(国保連合会 保健事業推進専門員)

第76回日本公衆衛生学会は、全国から約3,500人の学会関係者が集まり、特別講演や教育講演、メインシンポジウムのほか、1,466題に及ぶ一般講演の発表などが行われました。

秋葉澄伯氏による学会長講演では、「明治維新と薩摩と公衆衛生」をテーマに鹿児島県の公衆衛生行政に功績のあった方々が紹介され、公衆衛生活動の発展には、人とつながりや和が大切であることが述べられました。

また、慈恵大学理事長の栗原敏氏の特別講演「国民の健康を願った高木兼寛」では、幕末から明治にかけて医師や看護婦の教育機関の開設、脚気の疫学研究等に尽力した鹿児島県出身で慈恵大学の創始者である高木兼寛の功績が紹介されました。

続いて「これからの時代に向けた新たな公衆衛生の展開に向けて」のシンポジウムでは、保健師は先達から受け継いだスキルを発揮し、住民主導の健康づくりをけん引していくこと、地域に根ざした信頼やネット

ワークをつくり出すこと、社会環境の変化を踏まえて多くの職種や関係者とのつながりや連携を図っていくこと等が重要であると提案されました。



◀ 左から岩崎専門員・鈴木会長 ▶

その他の分科会では、保健所の役割、地域包括ケアシステム(高齢者だけでなく、乳幼児、障がい者、健常者など地域に暮らすすべての人たちを対象にしたもの)の構築、感染症や喫煙対策の研究、保健師の資質向上の取組、特定健診・保健指導の戦略研究等、幅広いテーマが取り上げられていました。

こうした様々な発表の中から、聴講した災害対策シンポジウム「阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議“ADRO”」を紹介します。

災害時における保健活動は、迅速かつ的確、効果的に行うことと、災害が長期化した場合は、生活の変化から予測される健康課題に対し、住民への継続した支援活動が必要です。そのため、熊本地震では、医師たちが復興連絡組織を立ち上げた時、地元の保健師は中心的な役割を担える存在と位置づけられました。

“ADRO”のスローガンには、“すべての被災者のために、保健師を支える活動を”とあり、関係団体とともに早くから保健師への支援体制が整えられました。それにより、地域をよく知る地元の保健師たちを中心に深刻な状況の中、住民に寄り添い、命と健康を守るための活動を続けることが出来たそうです。日頃の住民に対する地道な保健活動の大切さを再認識しました。今年、明治維新から150年の節目で、私たちのまわりでも国民健康保険の制度改革や第3期特定健診・特定保健指導等の運用の見直しが予定されています。明治維新と公衆衛生の黎明期に大きな役割を果たした鹿児島での日本公衆衛生学会に参加させていただき、時代を先取りした多くの先駆者が築いた功績と、連綿と受け継がれてきた思いを、次の世代へつなげていくことが重要であると感じました。(記事：岩崎久子)



## 平成29年度都道府県在宅保健師等会全国連絡会

日 時 : 平成30年2月2日(金)  
 会 場 : ビジョンセンター永田町(東京都)  
 参加者 : 全国40都府県81名(在宅保健師等会46名・国保連合会35名)  
 本県参加者 : 鈴木富士子(つづじ会会長) 高塚祐子(国保連合会 保健事業推進専門員)

開会に当たり国保中央会原理事長より『平成30年度から都道府県が国保保険者となり、財政運営の責任主体として中心的役割を担う。保険者努力支援制度も本格実施となり、保健事業の取組状況を評価し、都道府県と市町村へ支援金が交付される。市町村の支援要請も増えるため、全国在宅保健師等会の更なる活躍を期待する』と挨拶がありました。

全国連絡会木村会長は、役員会の報告と「住民に寄り添う活動を今後も続けたい」と挨拶されました。

午前中は、国保中央会飯山常務理事より「保健事業を取り巻く国の動き」、人口減少を見据え国の財政状況・国保制度改革の説明がありました。

続いて「保健事業は今!!～第3期特定健診特定保健指導・糖尿病性腎症重症化予防・高齢者の保健事業(フレイル)～」と題し、あいち健康の森健康科学総合センター長・津下一代氏より講演がありました。

特定健診受診率は50%を超え、積極的支援修了者はほぼ全ての数値について改善効果が継続、動機づけ支援も改善幅は小さいが同様の検証結果から、『保健指導は効果がある!』と明確になったこと、財務省や経済産業省等にも認識され、『保健指導が戦略になる!』との言葉に勇気づけられました。

また、年齢別・原因別死亡率はどの疾患も65歳未満に1つ山がある。傷病別医療費は循環器疾患が第1位(特に中高年期の男性)、要介護の原因は脳血管疾患(40～64歳男性の4割)である、要介護者の医療給付状況は心臓病が第1位、50%を超える。若い頃からの生活習慣が血管に大きな影響を与えること。

第3期の見直しの方向性を厚労省は「対象者の個性を重視した効果的な保健指導の実施は極めて重要な保険者機能」とし、保健指導の質の確保と実施率の向上を求めていると説明された。

今後の課題として、20～30代の肥満対策(中高年期の高血圧・糖尿病に直結)、喫煙対策(積極的支援該当者の5割が喫煙者)、重症化予防対策(糖尿病性腎症悪化の原因は治療に繋がっていないという実態)、高齢者のフレイル対策があり、多職種連携で取組んでいく必要があると感じました。

午後からは、国保中央会より「都道府県在宅保健師等会に関わる調査結果」の報告に続き、富山県と長野県の事例発表がありました。富山県「特定健診受診勧奨事業の取り組みについて」は、特定健診・特定保健指導未受診(未利用)者に対し電話による受診勧奨を行い、受診率(利用率)向上に寄与している。長野県「保健補導員への支援について」は、市町村支援事業の一環として「やって得する保健補導員活動」と題した講演会を中心に補導員の育成にあたっているとの内容でした。

最後のグループ討議では、会員の高齢化、新規会員の減少、活動参加会員の減少と固定化等は全国共通の課題。国保中央会と国保連合会の強力な支援を今後もお願いしたいという意見多数。静岡県も訪問事業の他に新規事業の工夫が必要と思いました。

【追記】島根県在宅保健師等会の保健文化賞受賞、つづじ会の健康寿命をのばそう!アワード受賞について原理事長から紹介、お褒めの言葉を頂き、昼休みにスライドショーで活動が紹介されました。



〈挨拶する原理事長〉



〈GWで発表する鈴木会長〉

(記事:鈴木富士子)

第6回健康寿命をのばそう！アワード

# 厚生労働省健康局長 優良賞 受賞

受賞内容

特定健診・特定保健指導支援事業  
「特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業」



受賞理由

国民健康保険加入者の生活習慣病の発症予防、重症化予防を目的として長年にわたり、県内市町で家庭訪問による助言・指導を展開し、健康寿命の延伸に寄与したこと。また、本事業の今後の全国的な展開の可能性や波及効果、さらに対象者に対する愛情の有る事業として評価された。



表彰式 全体写真 (2017. 11. 13)



静岡新聞に掲載されました  
(2017. 12. 1)



平成6年度から実施し様々な想を受け継いできた家庭訪問事業が今回、このような素晴らしい賞をいただくことが出来て感謝の気持ちでいっぱいです。評価していただいた「対象者への愛」をしっかり伝え続けていけるように今後も大切に行っていききたいと思います。  
(つつじ会会長 鈴木富士子)



厚生労働省健康局長 福田祐典 氏  
から賞状を授与していただきました

## 平成29年度 活動報告

- 6月 2日 総会及び25周年記念式典・全体研修会（葛城 北の丸）
- 8月～11月 国保連合会保険者支援保健事業への協力  
特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業（御殿場市・川根本町）
- 9月29日 第1回学習会（国保会館）
- 10月27日 都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員会（東京都永田町）
- 10月31日～11月 2日 第76回日本公衆衛生学会（鹿児島県鹿児島市）
- 11月13日 第6回健康寿命をのぼそう！アワード 厚生労働省健康局長優良賞 受賞
- 11月29日～30日 視察研修（はーとふるプラザ袋井ー袋井市総合健康センター 袋井市）  
（内藤記念くすり博物館 岐阜県各務原市）
- 2月 2日 都道府県在宅保健師等会全国連絡会（東京都永田町）
- 2月11日 「青木地区健康まつり」健康相談（藤枝市）
- 2月26日 第2回学習会（国保会館）
- 役員会 4月18日・5月26日・7月19日・9月5日・11月15日・1月26日・3月19日
- 編集委員会 6月27日・11月9日

### 編集後記

静岡に春を告げる河津桜はすでに葉桜に、ソメイヨシノの開花が待たれるこの頃です。本年度つつじ会の活動へのアワード受賞は、平昌オリンピックメダル獲得の快挙にも似て、会員一人ひとりの胸にキラキラした誇りを残しました。これも事業推進に惜しみないお力添えを下さる会員の皆様と、事務局をはじめご指導を下さる国保連合会の賜と心より感謝申し上げます。次年も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（東部 浅賀勢津子）

### 「つつじ会」会員募集

つつじ会では、今までの経験を活かし、一緒に活動していただける方を随時募集しています。身近に関心のある方がいらっしゃいましたら、つつじ会役員まで御連絡ください。

3月1日現在の会員数は43名です。

☆静岡県国保連合会ホームページ内のつつじ会案内もぜひご覧ください。



平成30年3月発行

発行者：静岡県在宅保健師の会 「つつじ会」

事務局：静岡県国民健康保険団体連合会

総務部 事業課

〒420-8558

静岡市葵区春日2-4-34

TEL 054-253-5576

FAX 054-253-5507